

8
2025

けんぽ通信

2025年8月号／発行：全国健康保険協会新潟支部／編集：企画総務グループ



公式LINE
友だち募集中



協会けんぽ2024(令和6)年度決算(見込み)のお知らせ

2024年度の決算(見込み)の概要

2024年度の決算は収入が11兆8,525億円、支出が11兆1,939億円、収支差は前年度から1,923億円増加し、6,586億円となりました。

保険料収入は、賃上げ等による標準報酬月額増加や被保険者数の増加により前年度比3,492億円の増加となった一方で、保険給付費は医療費の伸びが低めに推移した影響で前年度比1,040億円の増加となっています。

医療費については、新型コロナの臨時的特例廃止(2024年3月末廃止)等の特殊要因で伸びが抑えられていることが一定程度影響しており、今後の動向を慎重に見極める必要があります。

※ 詳しくは、協会けんぽのホームページをご覧ください。

2024年度決算(見込み) 医療分

単位：億円

収入	保険料収入	106,490 (+3,492)
	国庫補助等	11,690 (▲1,184)
	その他	346 (+113)
	計	118,525 (+2,421)
支出	保険給付費	72,552 (+1,040)
	拠出金等	36,195 (▲1,030)
	その他	3,193 (+487)
	計	111,939 (+497)
単年度収支差		6,586 (+1,923)

※ ()内は、対前年度比

※ 支出の「その他」は下図の「健診・保健指導経費」「協会事務費」「その他の支出」の合計

保険給付費 64.8%

協会けんぽが医療機関に支払う費用や、傷病手当金等の支払いに要する費用

高齢者医療への拠出金等 32.3%

高齢者の皆さまの医療費の一部を現役世代が負担しています。

健診・保健指導経費 1.5%

協会事務費 0.9%

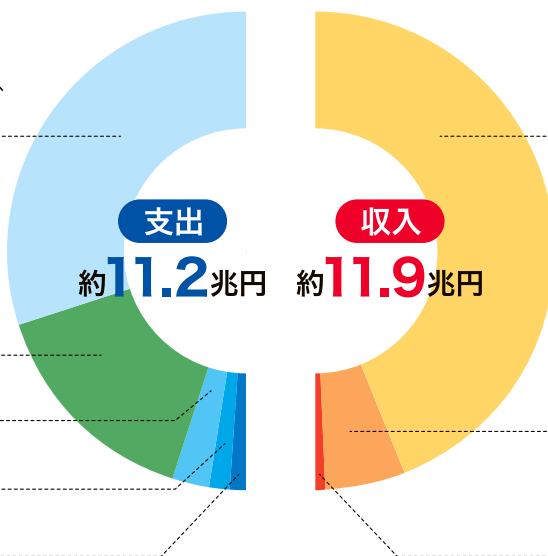
その他の支出 0.5%

保険料収入 89.8%

被保険者・事業主の皆さまに納めていただいている保険料

国からの補助金 9.9%

その他の収入 0.3%



Q

2024年度の決算は黒字額が増加しましたが、協会けんぽの財政は安定しているのでしょうか？

A

協会けんぽの財政は、当面、賃上げ等により標準報酬月額増加が見込まれるものの、

- ・現在の不安定な世界情勢が我が国の経済社会に及ぼす影響が不透明であり、これまでのような保険料収入の増加が中長期的に継続するか予測が難しいこと
- ・協会けんぽ加入者の平均年齢の上昇や医療の高度化等により保険給付費の継続的な増加が見込まれること
- ・団塊の世代が後期高齢者になったことにより後期高齢者支援金の中長期的に高い負担額のまま推移することが見込まれること

等に留意が必要と考えています。

また、「経済財政運営と改革の基本方針2025(2025年6月13日閣議決定)」において、診療報酬改定に関して、「2025年春季労使交渉における力強い賃上げの実現や昨今の物価上昇による影響等について、経営の安定や現場で働く幅広い職種の方々の賃上げに確実につながるよう、的確な対応を行う。」とされており、今後の動向を注視する必要があると考えています。

血圧が高いとどうなるの？ そして、高血圧治療には薬が必要ですか？

血圧についてお伝えしているシリーズの第3回は、新潟大学大学院生活習慣病予防・健診医学講座特任教授／新潟県労働衛生医学協会理事の加藤公則先生によるコラムです。

「非感染性疾患」という言葉をご存じでしょうか？

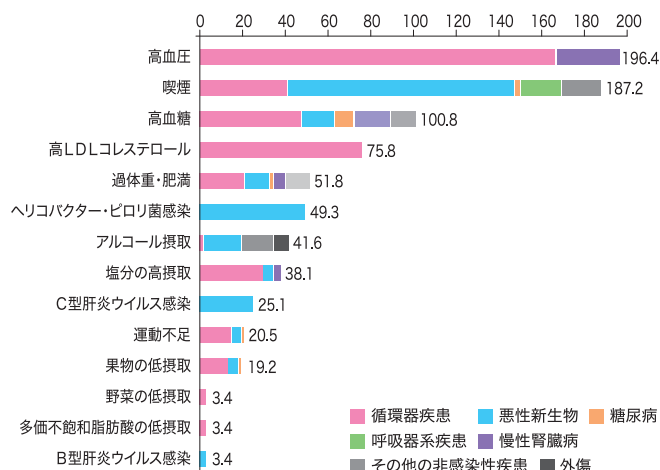
これは、WHOが定義している病気のグループで、不健康な食事、運動不足、喫煙、過度の飲酒、大気汚染などによって引き起こされる慢性疾患を指し、がん、糖尿病、循環器疾患、呼吸器疾患、精神疾患などが含まれます。日本人における非感染性疾患による死亡と関連するリスク因子を調べてみると、最も影響が大きいのは「**高血圧**」であることがわかっています。高血圧によって亡くなる人のうち、約85%は循環器疾患（狭心症、心筋梗塞、脳卒中、末梢動脈疾患など）が死因であり、残り約15%は慢性腎臓病によるものです（図）。

したがって、**高血圧を予防・治療することは、日本人の健康寿命を延ばすうえで極めて重要だと言えるでしょう。**

資料：Nomura S, Sakamoto H, Ghaznavi C, Inoue M: Toward a third term of Health Japan 21 - implications from the rise in non-communicable disease burden and highly preventable risk factors. The Lancet Regional Health - Western Pacific 2022, 21.
(注) 日本における2019年の非感染性疾患と障害による成人死亡について、喫煙・高血圧等の予防可能な危険因子別に死亡数を推計したものです。

リスク要因別の関連死亡者数（2019年）

（単位：千人）



正しい測定で見えてくる「本当の高血圧」

さて、高血圧は通常、**140mmHg/90mmHg以上**であると定義されています。これに関連して「**白衣高血圧**」という現象もよく知られています。白衣高血圧とは、診察室や健康診断の場面で緊張により一時的に血圧が上昇し、家庭で測る血圧よりも20mmHg以上高くなるような状態を指します。このような白衣高血圧の方は、長期的な循環器疾患のリスクはそれほど高くはないとされています。

したがって、**健診などで血圧が高いと言われた場合には、家庭での血圧測定を行うことが非常に重要です。**特に測定のタイミングは、**起床後1時間以内・トイレを済ませた後・朝食前**と決められており、この時間帯の平均血圧が**135/85mmHgを超えている場合は「本当の高血圧」として、治療の対象になります。**



高血圧の治療方法は？

治療は、食事（減塩など）、運動、節酒、禁煙など生活習慣の改善が基本となります。このような生活習慣の見直しをある程度行ってもなお血圧が高い場合には、**薬物療法**が必要になります。

高血圧の人が適切な降圧治療を受けて血圧を正常化した場合、脳卒中・心筋梗塞・心不全などのリスクをおよそ**30%程度減らす**ことができるとされています。

しかし、多くの患者さんからは、「薬は一生飲み続けたいといけないのですか？」「できれば薬は飲みたくありません」といった声が聞かれます。



高血圧と上手く付き合っていくために

しかし、日本人の主要な死因の背景には高血圧が強く関与しており、それを放置することで、将来命に関わる重大な病気を引き起こすリスクが高まるのです。薬を一生飲むことは、裏を返せば「その分、命を守り、麻痺や寝たきりを防ぎ、快適な老後を送る可能性が高まる」ということです。このように考えれば、薬物治療も決して後ろ向きなものではなく、未来の自分のために前向きに選択すべき手段だと言えるのではないのでしょうか。



全国健康保険協会 新潟支部
協会けんぽ

※この広報誌は協会けんぽにご加入の事業者様以外にも情報提供としてお送りしています。

〒950-8513 新潟市中央区東大通2-4-4
日生不動産東大通ビル3階
TEL025-242-0260(代表)

協会けんぽ 新潟

